

# オニバイド+5FU/I-LV療法

【外科】210【膵癌】  
 (第 コース目)

\*網かけ部分は必須記入事項

診療科:	病棟:
医師名:	印

身長:	cm	体重:	kg
体表面積:	m <sup>2</sup>	Cr:	mg/dL

■レジメン 下記が1コースの投与スケジュール : 2週ごとを1コースとする

Day	1	2	8	9	~14
施行日	/	/	/	/	
オニバイド	↓	休薬	休薬	休薬	
アイソボリン	↓	休薬	休薬	休薬	
5-FU	↓	↓	休薬	休薬	

■投与順序 ※マークは同タイミング投与薬あり

滴下順	
①	アロカリス注235mg 1V デキサート注6.6mg 1V グラニセトロンバッグ 100mL 30分
②	↓ 生食 50mL 10分
③	↓ ●オニバイド注【 】mg 5%ブドウ糖 500mL 1時間30分
④	↓ 生食 50mL 10分
⑤	↓ ●アイソボリン注【 】mg 5%ブドウ糖 250mL 2時間
⑥	↓ 生食 50mL 10分フラッシュ
⑦	↓ ●5-FU注【 】mg 5%ブドウ糖 120mL 約46時間baxtar infusion pumpで

■投与量 ※投与量の参考

薬剤名	標準投与量	
オニバイド注	70 mg/m <sup>2</sup>	mg/Body
アイソボリン注	200 mg/m <sup>2</sup>	mg/Body
5-FU注	2400 mg/m <sup>2</sup>	mg/Body

■注意・確認事項

- 中心静脈から投与すること。
- インラインフィルターは使用しないこと。
- オニバイドは腸閉塞患者には禁忌。
- オニバイドの血管外漏出時は、炎症性抗がん剤としてマニュアルに沿った対応をすること。
- UGT1A1 \* 6若しくはUGT1A1 \* 28のホモ接合体を有する患者、又はUGT1A1 \* 6及びUGT1A1 \* 28のヘテロ接合体を有する患者では、1回50mg/m<sup>2</sup>を開始用量とする。
- なお、忍容性が認められる場合には、1回70mg/m<sup>2</sup>に増量することができる。

入力 薬剤師	看護師	看護師